

小 学 校

平成 2 7 年度

教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

目 次

| | |
|------|---|
| 研究主題 | 1 |
|------|---|

第3学年及び第4学年分科会

| | |
|-------------|---|
| I 研究主題設定の理由 | 2 |
| II 研究の仮説 | 2 |
| III 研究構想図 | 3 |
| IV 研究の内容 | 4 |
| V 実践事例 | 6 |
| VI 研究の成果 | 9 |
| VII 研究の課題 | 9 |

第5学年分科会

| | |
|-------------|----|
| I 研究主題設定の理由 | 10 |
| II 研究の仮説 | 10 |
| III 研究構想図 | 11 |
| IV 研究の内容 | 11 |
| V 実践事例 | 13 |
| VI 研究の成果 | 17 |
| VII 研究の課題 | 17 |

第6学年分科会

| | |
|-------------|----|
| I 研究主題設定の理由 | 18 |
| II 研究の仮説 | 18 |
| III 研究構想図 | 19 |
| IV 研究の内容 | 19 |
| V 実践事例 | 21 |
| VI 研究の成果 | 24 |
| VII 研究の課題 | 24 |

学んだことを活用する力の育成を図り、 社会的事象の特色や意味について考えをもつ児童の育成

I 研究主題設定の理由

本年度4月及び5月に各研究員が担任をする学級の実態を分析した際、『つかむ』段階で問題解決の見通しがもてない、『調べる』段階で活動の目的が明確になっていない、『まとめる』段階で、学んだことを根拠にして自分の考えを書いたり、発言したりできない」という課題が見いだされた。そこで本研究では、これらの課題の改善を図るためには、児童がこれまでに学んだ「具体的な知識や概念、調べ方などの技能」を活用して、自分の考えをもつようにしていくことが重要と考えた。このことは、中央教育審議会による次期学習指導要領の改訂に関わる論点整理（平成27年8月）においても「問題発見・解決に必要な情報を収集・蓄積するとともに、既存の知識に加え、必要となる新たな知識・技能を獲得し、知識・技能を適切に組み合わせ、それらを活用しながら問題を解決していくために必要となる思考が重要」と述べられている¹。

そこで、本研究ではまず「学んだことを活用する」具体的な場面について検討し、ある小単元を学習する際に、それまでの学習で学んだことを、現在の学習活動において表1²のように活用できることを確認した。そして、必要となる力を

「学んだことを活用する力」と定義し、その力を伸ばす方策について研究を進めることとした。また、「社会的事象の特色や意味について考えをもつ児童」とは、「小学校学習指導要領社会編」の能力に関する目標に示されている、社会的な思考力や判断力を身に付けた児童の姿と定義した³。

- ・体験から感じ取ったことを表現する。
- ・事実を正確に理解し伝達する。
- ・概念・法則・意図などを解釈する。
- ・情報を分析・評価し、論述する。
- ・課題について、構想を立てて実践する。
- ・互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

表1 「活用」の学習活動の例

以上のことから、本研究では、研究主題を「学んだことを活用する力の育成を図り、社会的事象の特色や意味について考えをもつ児童の育成」と設定し、本研究主題に迫るために、「活用のデザイン図」を用いた単元構成や、「ゴールの姿」を明確にした指導を各分科会共通の手だてとすることとした。「活用のデザイン図」とは、学んだことを活用する力を育成するために①既習の知識や技能、概念のうち、本小単元で何が活用できるのか②その知識や技能、概念はどこで習得したのか③本小単元のどこで活用させるのか、について整理し、図に表したものである。また「ゴールの姿」とは、単元で習得すべき知識や概念、技能を身に付けた児童に、単元の終末において、表現させたい内容を文章の形で表したものである。

本研究では、「学んだことを活用する力」を育成することができれば、児童は習得した知識や概念、技能を活用して、学習問題に対する予想を考え、目的を明確にして追究するとともに、学習問題に対する自分の考えや、社会的事象の特色や意味についての考えをもてるようになるかと捉えている。このことを本研究全体で共通理解し、各学年の発達段階や学習内容を考慮しながら、各分科会で研究を進めた。

1 「論点整理」（中央教育審議会教育課程企画特別部会 平成27年8月）

2 「最新教育基本用語 2009～2010年版」（小学館 平成21年5月発行）

3 「小学校学習指導要領解説 社会編」（文部科学省 平成20年8月）

観察・調査や資料活用を通して、自分と地域社会のつながりを考えることができる児童を育成するための指導の工夫

I 研究主題設定の理由

「小学校学習指導要領 社会編」の第3学年及び第4学年の能力に関する目標においては、「地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。」と示されている。しかしながら、平成26年7月に実施された「児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都教育委員会）」では、情報を取り出す作業はできても、その情報を相互に比較したり、関連付けたりして思考することに課題があるという児童が6割近くいるという実態が明らかになった。

児童のノートの実行を行った結果、例えば、人口の推移を表したグラフと火災の発生件数の変化を表したグラフを比較した際に「人口が年々増えていることが分かりました」「火事が減っていることを知りました」と、必要な情報を読み取ることはできても、「人口が増えているのに火事が減っているのには、何か理由があると思います。」と他の情報と関連付けて考えることができていないことが分かった。同様に観察・調査においても、具体的な事実を捉えることはできても、その特色や相互の関連などについて考えることが難しい児童が多いことが分かった。これらは、上述した都の調査結果と同様の傾向である。

そこで、本研究では更に検討を進め、以下の二点が要因となっているのではないかと分析した。第一は、児童が学習の見通しをもつことができているため、何を調べたらよいか分からず、自ら調べようとする意欲をもてないこと。第二は、教師が児童に考えを表現させる際に、調べた事実を根拠とした発言や記述をさせていないことである。

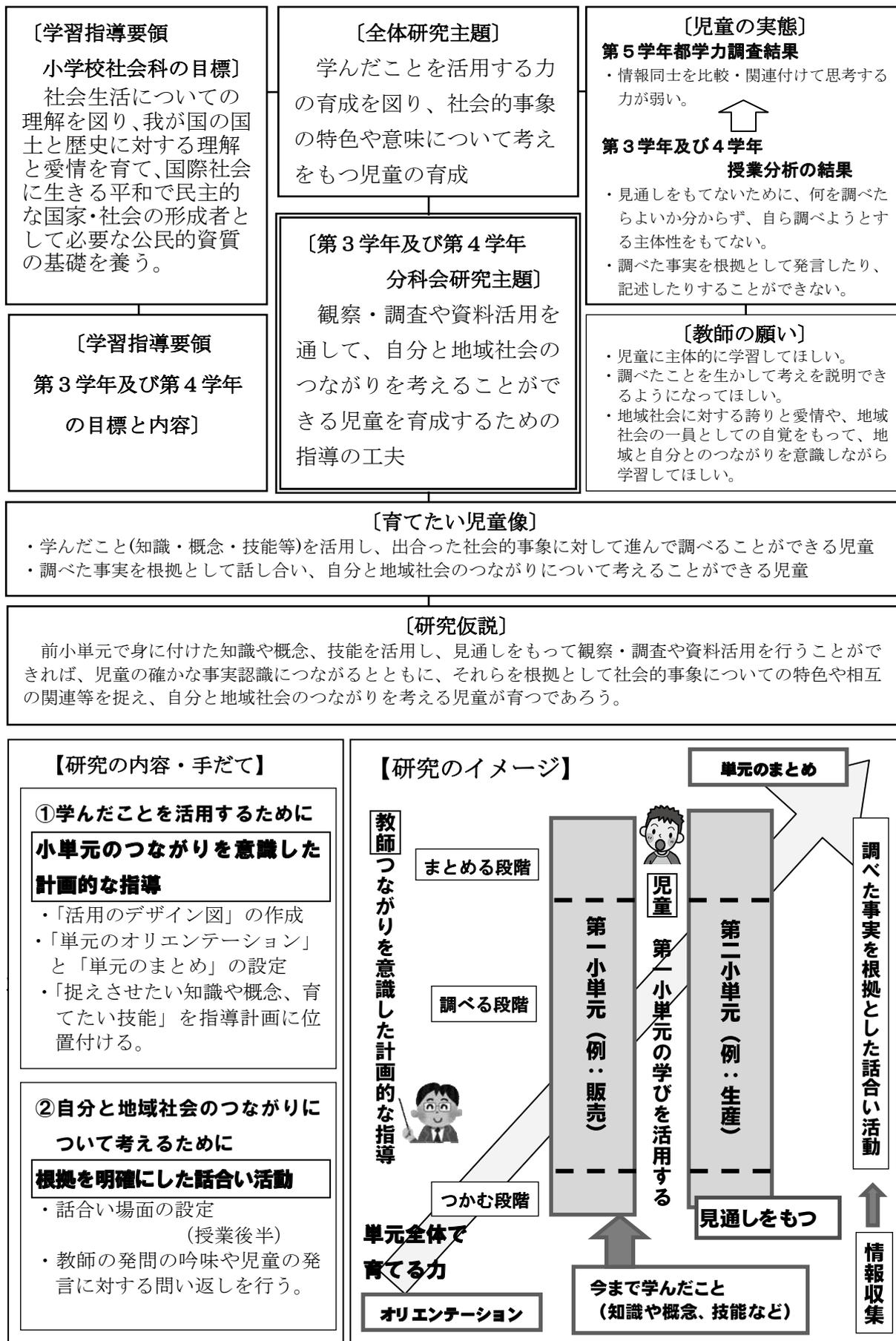
これらを受け本研究では、第3学年及び第4学年は、観察・調査や資料活用の仕方を意図的に指導することで学習の見通しをもたせ、調べた事実を根拠として児童が考える学習活動を設定していくことが必要ではないかと考えた。そして、児童が自ら調べようとするためには、今までに学んだ知識や概念、技能等を、次の学習において活用させることも重要であると考えた。さらに、地域の教材を取り入れた学習を繰り返し行うことで、児童が社会的事象の特色や関連を考え、地域社会の一員としての自覚や地域に対する愛情をもてるようになり、全体研究主題にある「学んだことを活用する力」の育成にもつながるであろうと捉えた。

以上のことから分科会研究主題を「観察・調査や資料活用を通して、自分と地域社会のつながりを考えることができる児童を育成するための指導の工夫」とした。

II 研究の仮説

前小単元で身に付けた知識や概念、技能を活用し、見通しをもって観察・調査や資料活用を行うことができれば、児童の確かな事実認識につながるとともに、それらを根拠として社会的事象についての特色や相互の関連等を捉え、自分と地域社会のつながりを考える児童が育つであろう。

Ⅲ 研究構想図



IV 研究の内容

1 学んだことを活用するために、小単元のつながりを意識した計画的な指導を行う

学習指導要領の第3学年及び第4学年の各内容を一つの「単元」として捉え、指導計画を作成した。その際に第一小単元と第二小単元の学習計画や使用する資料に共通性をもたせることで、児童が学習に見通しをもち、第一小単元で学んだ知識や概念、問題解決に必要な技能を活かして主体的に観察・調査、資料活用できるのではないかと考えた。

(1) 「活用のデザイン図」の作成（次項参照）

小単元間で活用できる項目を明確にするため、以下の手順で活用のデザイン図を作成した。

- ① 学習指導要領の内容を単元として設定する。
- ② 「単元のまとめ」を設定し、児童の「ゴールの姿」を考える。…単元を通して目指す児童を思い描く。
- ③ 「単元のオリエンテーション」を設定する。…単元間の学習のつながりを考える。
- ④ 学習指導要領の内容と、教材の整合性を図る。…教材を吟味する。
- ⑤ 「技能・学び方（方法）」に共通性をもたせる。…どのような知識や技能を養うか明確にする。
- ⑥ 「活用のデザイン図」を意識した、指導計画を作成する。…第二小単元では児童が主体的に取り組めるようにする。

(2) 「単元のオリエンテーション」と「単元のまとめ」の設定

内容を「単元」として捉えるため、第一小単元の前に「単元のオリエンテーション」、第二小単元の後に「単元のまとめ」を設定した。

- 内容(2)「販売」と「生産」の学習の場合**
- 単元のオリエンテーション…地図を基に地域には様々な店や工場があることに気付かせた。
 - 単元のまとめ…学習で取り扱った店、工場以外の地域にある様々な店や工場働く人々の工夫について、学習したことを基に考えさせた。

このような学習活動を行うことで、教材化した店や工場も含めた地域にある店や工場働く人々の工夫によって自分たちの生活が支えられていることを児童に気付かせ、児童一人一人が地域社会と自分とのつながりを、より意識できるよう工夫した。

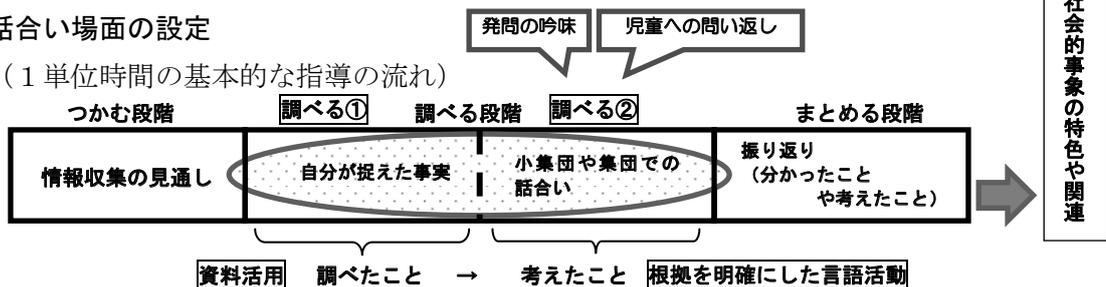
(3) 「捉えさせたい知識や概念、育てたい技能」を指導計画に位置付ける

児童に捉えさせたい知識や概念、育てたい技能を指導計画の中に明記することで、単元の中で活用させていく内容について、教師が具体的に把握できるようにした。

2 自分と地域社会のつながりについて考えるために、根拠を明確にした話し合いを行う。

(1) 話し合い場面の設定

(1 単位時間の基本的な指導の流れ)



調べた事実を根拠にして社会的事象の特色や関連を考えられるようにするために、調べる段階を調べる①と調べる②の二つに分けて指導を行った。調べる①は、主に問題解決に必要な事実を調べる時間であり、調べる②は、調べる①で習得した事実を比較、関連付け、総合しながら、本時のねらいを達成するための話し合い等を行う時間である。最後のまとめる段階は、話し合いにより導き出した自分の考えを、根拠を基にして書かせる時間である。

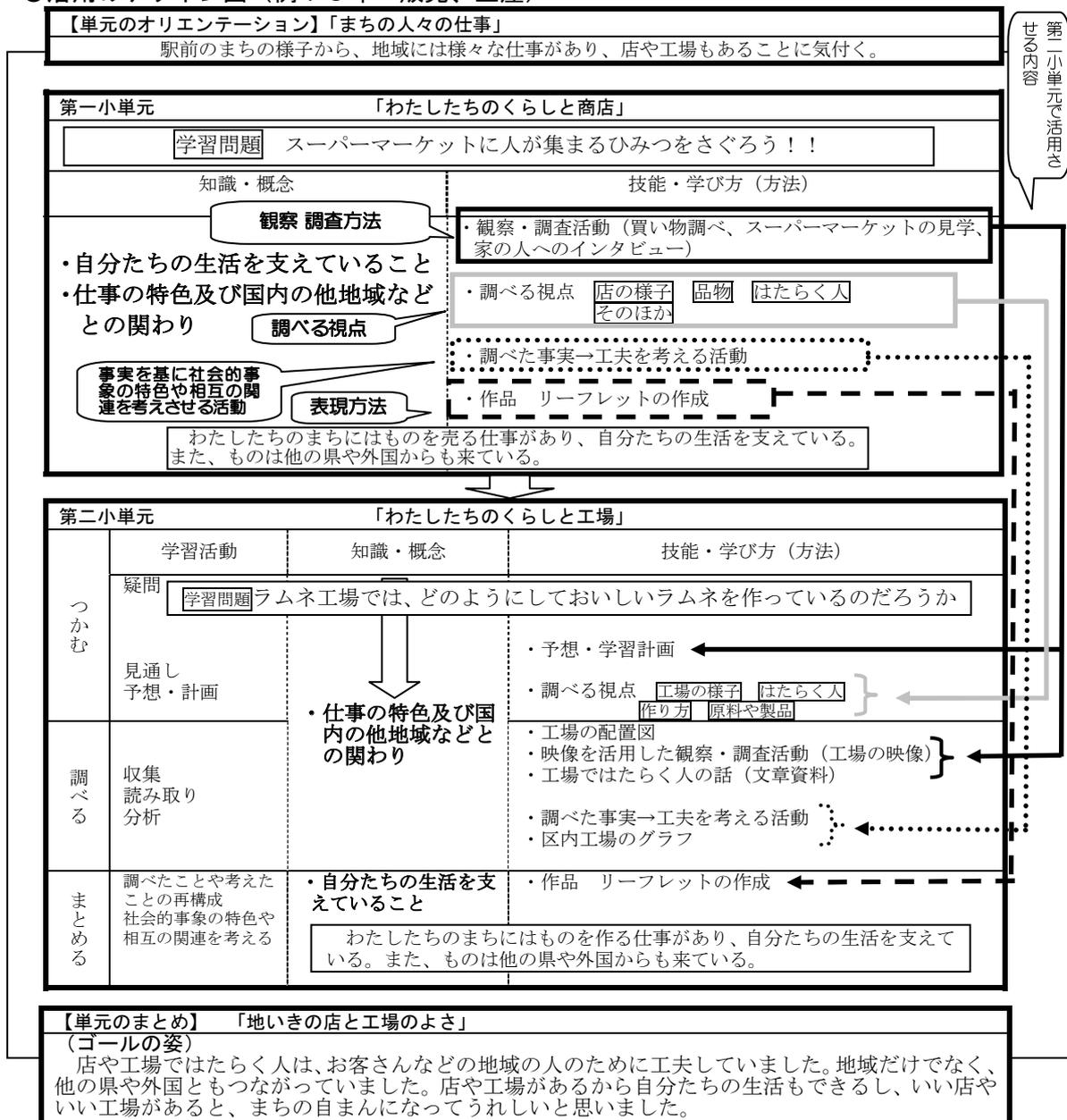
ねらいに応じてこの学習活動を指導計画の中に意図的・計画的に設定することで、児童が社会的事象の特色や関連を考え、地域社会とのつながりに気付くことができるようにした。

(2) 教師の発問の吟味や児童の発言に対する問い返しを行う

児童の問題解決のための視点に気付かせるための発問を大切に、日常的に問いかけを行った。また、児童が、資料から得た知識や概念を基に学級全体で話し合う時には、児童の発言への問い返しをしたり、話型を使って児童に発言をさせることで板書の整理に生かしたりした。これらの活動を繰り返すことで、児童が自らの考えの根拠を明確にすることができるようになり、自分と地域社会のつながりについて考えられるようにした。

| 発問の例 | 問い返しの例 | 話型の例 |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・お店の人は、何が困るのだろう (事実を調べるとき) ・工場の中はどんな様子なのだろう (特徴・特色を調べるとき) ・どうして工場の人たちは点検作業には機械を使わないんだろう (意味・意義・原因を考えるとき) ・どうすれば解決できるかな (まとめ方や参画を考えるとき) | <ul style="list-style-type: none"> ・なぜそう思ったの? ・どこからそう思ったの? (根拠が不明確なとき) ・くわしく言うとき? ・例えばどういうこと? (説明が足りないとき) ・つまり? ・まとめて言うとき? (説明を抽象化させたいとき) | <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、お店の人の工夫の一つは… (抽象的なものを具体化するとき) ・つまり、お店の人も工場の人も… (抽象化したり、まとめたりするとき) ・～からお店は、私たちの生活に欠かせないと思いました。(考えました。)(根拠を明確にするとき) ・〇〇さんに付け足して(同じで)… (詳しくしたり、言い換えたりするとき) ・〇〇さんと違って… (違いを認めて話すとき) |

●活用のデザイン図 (例：3年 販売、生産)



V 実践事例 「まちのりびとのしごと」第3学年及び第4学年の内容(2)ア、イ

1 単元目標

地域の販売や生産について具体的に調べる活動を通して、販売や生産に関する仕事により、自分たちの生活が支えられていることや他地域とも関わりがあることを理解し、その工夫は地域や自分たちの生活と関わりがあることについて考える。

2 実践 児童の反応 分析

全24時間(オリエンテーション1時間、販売12時間、生産10時間、単元のまとめ1時間、)

| | | | | |
|--|--|---|---|--|
| | ねらい | ○発問、話し合いの場面 ・児童の反応 | <input type="checkbox"/> 資料 第一小単元から第二小単元へと活用される知識・概念・技能 | ※指導・支援 ◇評価【観点】(方法) |
| オリエンテーション | ①駅前の子の様子を調べ、地域には様々な店や工場、仕事があることに気付く。 | ○ どのような 店や建物があるのか駅前の動画から見つけよう(話し合い)。 ・豆腐屋 ・工場 ・スーパーマーケット ○ どのような 人があるか商店街の写真から読み取ろう(話し合い)。 ・買い物をする人 ・配達する人 | <input type="checkbox"/> 地図 <input type="checkbox"/> 駅前の動画・画像 | ◇地域の仕事について関心をもつ。 【関・意・態①】 |
| つかむ | ①買い物調べを行い、自分たちの生活経験を知る。 ②③買い物調べから自分たちの生活経験の傾向を把握し学習問題を見出すことができる。 | ○家の人が どこでどのようなもの を買うのか自分たちの生活を振り返ってみよう(話し合い)。 ○買い物調べの結果を集めてグラフに表そう。 ○グラフ から どんなことに気付けるかな(話し合い)。 ・スーパーマーケットだけすごく多い。 ○疑問を出し合って、学習問題を見出そう(話し合い)。 | <input type="checkbox"/> 買い物調べ <input type="checkbox"/> 買い物調べの表 <input type="checkbox"/> 買い物調べのグラフ 自分たちの生活と地域の仕事の関わり【学習問題】 | ◇販売に関する仕事について関心をもつ。 【関・意・態①】 ※個々に知りたいことを考え、学級で集約していく。 ◇販売店について調べたいことを具体的に考えることができる。 【思・判・表①】 |
| 【学習問題】 スーパーマーケットに人が集まるひみつをさがろう! | | | | |
| 調べる | ④スーパーマーケットに人が集まる理由を考え、見学の視点を作る。 ⑤⑥スーパーマーケットを見学し、働く人の工夫や努力を知る。 ⑦⑧見学の結果から、販売の工夫や努力をまとめる。 ⑨⑩スーパーマーケットのチラシを調べ、働く人の工夫や努力、他地域とのつながりを知る。 ⑪買い物上手のメモから消費者の願いを考える。 | ○学習問題に対する予想を考えよう。 ○学習計画を考えよう。 ・品物について ・店の様子 ・働く人の様子 ・その他 ○調べる計画を作ろう。 ○スーパーマーケットを見学して、スーパーマーケットに どのような 秘密があるか調べよう。 ○ どのような 秘密があったか、視点ごとに調べた事柄を発表し合おう(話し合い)。 ・商品はまとめて置いてあった。 ○調べた事柄 から 、工夫や努力を考えよう(話し合い)。 ・お客さんのためにやっていることがほとんどだ。 ○チラシ から お店の人の工夫を調べよう(話し合い)。 ・日付を決めて安くしている。 ・数字が大きく書いてあって見やすい。 ○商品は どこから 来ているか調べよう(話し合い)。 ・日本中や外国からきている。 ○買い物メモ から 、販売店へのお客さんの願いについて調べよう(話し合い)。 ・様々なお客さんの声を聞いて工夫をしている。 | <input type="checkbox"/> 買い物調べのグラフ <input type="checkbox"/> スーパーの絵資料 【予想、学習計画】 【調べる視点】 品物について 店の様子 働く人 その他 <input type="checkbox"/> 働いている人の話 商品の種類 店の様子 店で働く人の役割 働く人の工夫や努力 消費者のニーズ <input type="checkbox"/> チラシ <input type="checkbox"/> プライスカード 他地域とのつながり <input type="checkbox"/> 買い物上手のメモ 働く人の工夫や努力 消費者のニーズ 【学習問題に対するまとめ】 地域の販売と自分との関わり 【リーフレットへのまとめ方】 | ◇予想をグループ化しながら、調べる視点を作ることができる。 【思・判・表①】 ◇スーパーマーケットの仕事について視点に基づいて見学できる。 【思・判・表①】 ◇たくさんの人が集まるスーパーマーケットの人々は様々な工夫や努力をしていることを理解することができる。 【知・理①】 ◇商品や製品を通じて他地域とも結び付いていることが分かる。 【知・理②】 ◇地域の店は、消費者のニーズを聞きながら工夫を行い、生活を支えていることを考えられる。 【思・判・表①】 |
| まとめる | ⑫学習問題に対する自分の考えをまとめる。 ⑬これまで学習してきた分かったことや考えたことをリーフレットにまとめ表現する。 | ○販売の仕事についてまとめたことを 基に 、店の人が取り組んでいる工夫や努力について考えよう(話し合い)。 ○学習問題の解決を図ろう。 ○リーフレットに どのような 事柄をまとめればよいか、考えよう。 ○調べたことをまとめよう。 | | ◇販売店の人の努力や工夫を考え、学習問題の解決を図ることができる。【思・判・表②】 ◇地域の販売に関する仕事は自分たちの生活を支えていることを理解している。【知識③】 ◇これまでの学習をもとにリーフレットをまとめることができる。【技②】 |

| | | | |
|--|---|--|---|
| <p>つかむ</p> <p>①区内にラムネ工場があることを知り、ラムネと自分たちの関わりについて考え学習問題を見いだすことができる。</p> | <p>○工場について知ろう。</p> <p>○区内の工場で作られているラムネを飲んで、知っていることや感想を発表し合う【話し合い】。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしい。・炭酸飲料。 ・祭りで売っている。 <p>○ラムネの瓶から作り方を予想しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビー玉が入っている。 <p>○1日の生産量を表す資料から、工場について知りたいことを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうやって作っているのか。 <p>○学習問題を見いだそう。</p> | <p><input type="checkbox"/>ラムネ工場の写真</p> <p><input type="checkbox"/>工場で生産しているラムネ飲料</p> <p>自分たちの生活と地域の仕事の関わり</p> <p>【学習問題】</p> | <p>※個々に知りたいことを考え、学級で集約していく。</p> <p>◇生産に関する仕事について関心をもつ。</p> <p>【関・意・態①】</p> <p>◇ラムネ工場について調べたいことを具体的に考えることができる。</p> <p>【思・判・表①】</p> |
|--|---|--|---|

【学習問題】ラムネ工場では、どのようにしておいしいラムネを作っているのだろうか



中野区にこんな工場があって1日に18000本も作っていることにびっくりしました。これだけたくさんおいしいラムネを作っているのだから、**工夫や努力がたくさんある**と思います。早く調べたいです。

前小単元で工夫や努力がキーワードになるということをおさえているので、スムーズに思考が流れ、意欲も高まっている。

| | | | |
|---|--|--|--|
| <p>②ラムネ工場の仕事に関心もち、学習問題について予想し調べる計画を立てる。</p> | <p>○ラムネの製造過程の様子の写真から製造の仕事について予想をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瓶を集める ・瓶をより分ける ・瓶を洗う ・ラムネを入れる ・ビー玉で栓をする ・検査をする ・ラベルやキャップをつける ・箱に詰める <p>○予想から何を調べないといけないかを考えよう。</p> <p>○調べる計画を作ろう。</p> | <p><input type="checkbox"/>工場の様子の写真</p> <p><input type="checkbox"/>製造過程のカード</p> <p>【予想、学習計画】</p> <p>【調べる視点】</p> <p>原料 工場の様子</p> <p>作り方 働く人</p> <p>視点作りの際には、予想を前小単元の視点で分けると分かりやすいという発言があり、進んで視点を作ることができた。</p> | <p>※個々の予想を、学級で集約し、販売の時の視点を生かしながら今回の視点を作る。</p> <p>◇販売の視点を生かしながら、調べる視点を作ることができる。</p> <p>【思・判・表①】</p> |
|---|--|--|--|

| | | | |
|---|--|--|---|
| <p>調べる</p> <p>③映像資料を基に工場では、どのようにしてラムネを作っているかを調べる。</p> | <p>○映像資料からラムネができるまでの様子を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンベアのような物に乗って順番に作業をしている。 ・思ったよりも狭そうなところで作業している。 ・大きな機械を使っている。 <p>○工場長の手紙から、どうやってラムネが作られているか調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラムネはシロップと炭酸水を混ぜているんだ。 | <p><input type="checkbox"/>工場の様子のDVD</p> <p><input type="checkbox"/>工場長からの手紙① (原料について)</p> <p>【調べる視点】</p> <p>原料 工場の様子</p> <p>作り方 働く人</p> | <p>※調べる視点を明確にし、調べる活動を行う。</p> <p>◇ラムネの製造過程について映像資料から調べることができる。</p> <p>【技①】</p> |
|---|--|--|---|

| | | | |
|---|---|--|--|
| <p>④工場や働く人の様子で気付いたことを発表し、工場の様子に気付く。</p> | <p>○どんな秘密があったか、視点ごとに調べた事柄を発表し合おう【話し合い】。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シロップに炭酸水を足して作っている。 ・大きな機械を使っている。 ・一人の人が同じ作業をしている。 ・人がたくさんいるのではなく、機械を上手に使っている。 <p>○繰り返し検査をしている様子から安全なラムネを作る工場の人々の思いを調べよう【話し合い】。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瓶のヒビだけでなくゴミが灰っていないかを調べていることにおどろいた。 | <p><input type="checkbox"/>工場の様子のDVD</p> <p>製品の作り方</p> <p>機械などの工場の様子</p> <p>工場で作る人の役割</p> <p><input type="checkbox"/>検査の様子の写真</p> <p><input type="checkbox"/>工場長からの手紙② (検査について)</p> <p>前小単元と同じように授業を構成しているため、事実を発表しあう際には、考えた事も一緒に出てきていた。</p> | <p>※映像に戻るようにし、共通の認識をもちながらまとめる。</p> <p>◇ラムネの作り方や工場の様子に気付く。</p> <p>【技①】</p> <p>※生産者の立場として考えさせるようにする。</p> |
|---|---|--|--|

| | | | |
|---|--|--|---|
| <p>⑤映像から気付いた工場や働く人の様をもとに、生産の工夫について理解する。</p> | <p>○調べた事からラムネ工場の工夫や努力を考えよう【話し合い】。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つ丁寧にチェックしている。 →お客さんに信用される製品作り <p>○ラムネの種類が多さや、ペットボトルのラムネから工場で作る人の工夫や努力を考えよう【話し合い】。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な味のラムネを作っているのは、工場ではたらく人がたくさんの人に飲んでもらいたいから。→お客さんに合わせた製品作り | <p><input type="checkbox"/>工場の製品一覧表</p> <p><input type="checkbox"/>ペットボトルのラムネ</p> <p>働く人の工夫や努力</p> <p>顧客のニーズ</p> | <p>◇安全なラムネやおいしいラムネを作るための工場の人々は様々な工夫や努力をしていることを理解することができる。</p> <p>【知①】</p> |
|---|--|--|---|



スーパーマーケットの時と同じように、お客さんのことを考えて、作っているということが分かりました。ペットボトルもお客さんの声を聞いて作ったんだと思います。

前小単元で働く人の努力や工夫に、消費者のニーズをおさえていたため、本小単元でも同じように顧客のニーズとして捉えることができています。

| | | | |
|---|--|---|--|
| <p>⑥ラムネが出荷される地域を予想し、他地域との関わりについて知る。</p>  <p>ラムネは工場だけでなく、いろいろな所へ送っていることが分かりました。オーストラリアまで行っていることにびっくりしました。原料もそうだったけど、いろいろな場所とつながっているなと思いました。</p> | <p>○他地域とのつながりについて、ラムネの原料が生産される地域や、商品が運ばれる地域を表す資料から調べよう(話し合い)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣の県からも注文が来ることにびっくりした。 ・オーストラリアまで日本のラムネが売られていることにびっくりした。 | <p>□工場長からの手紙③（出荷する地域について）</p> <p>□日本地図、世界地図</p> <p>工場と他地域とのつながり</p> | <p>◇原料や製品を通じて他地域とも結び付いていることが分かる。 【知・理②】</p> <p>前小単元で調べる対象にしていたため、学習計画を立てる際にも調べたいという発言がクラスで見られた。単元を通して他地域とのつながりを意識していると見える。</p> |
| <p>まとめる</p> <p>⑦まとめたリーフレットを基に工場の人々の努力について考え、学習問題の解決を図る。</p>  <p>おいしいラムネを作るために1番大切なのは、人です。8人という少ない人数でやっても中野区の人なので、中野に対する気持ちが強く出ておいしいラムネになっているのだと思います。2番目は人の手です。きかいだけでなく大事なところは人の手でやっているからミスがないのだと思います。3番目は、他のちいきとのつながりです。お客さんの気持ちを考えて、できるかぎり送っていることがすこいと思いました。そして最後に、ぼくは、世界に出ているラムネ工場が中野にあることがとてもうれしいです。</p> | <p>○ラムネ工場の仕事についてまとめたことを基に、工場の人々が取り組んでいる工夫や努力について考えよう(話し合い)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんのことを考えて様々な工夫をしていた。 ○学習問題の解決を図ろう。 ・中野区にはラムネを作る工場があり、いろいろな工夫をして、自分たちの生活を支えている。また、ラムネは他の県や外国ともつながっている。 | <p>【学習問題に対するまとめ】</p> <p>地域の生産と自分との関わり</p> | <p>◇工場の人の努力や工夫を考え、学習問題の解決を図ることができる。 【思・判・表②】</p> <p>◇地域の生産に自分たちの生活を支えていることを理解している。【知識③】</p> <p>前小単元では、地域との関わりを強く意識することはできなかったが、前小単元と同じ構成にすることにより、地域を広く捉えることができた。</p> |
| <p>⑨⑩調べたことをリーフレットにまとめる。</p> | <p>○おいしいラムネができるまでを家の人に伝えるリーフレットにはどのような事柄をまとめればよいか、考えよう。</p> <p>○調べたことをまとめよう。</p> | <p>【リーフレットへのまとめ方】</p> | <p>◇これまでの学習をもとにリーフレットをまとめることができる。 【技②】</p> |

| | | | |
|--|--|-----------------------------------|---|
| <p>単元のまとめ</p> <p>①地域の店や工場は、地域や自分たちの生活にとってどのような良さがあるのかを考えることができる。</p>  <p>今日、私がよく分かったことは、私たちは、スーパーや工場があることで、生活をささえてもらっているということです。生活をささえてもらっているということは、地域に住んでいる人がそこに住みやすいということなので、楽しくかいてきに住めるということが分かりました。</p>  <p>店や工場は生活をささえてくれたり、お客さんのこと(声)を聞いてくれたり、お客さんにとってひつようなそんざいです。だからスーパーや工場がなくなるとこまると思いました。店や工場は生活をささえてくれるものだと思います。こういう場所はまちの人にとって大事なところなんだとかんじました。</p> | <p>○学んだことを基に、地域や自分たちの生活にとって店や工場の良さについて考えよう(話し合い)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケットは安心なものを売っていた。安心なものを売っている店は地域の人も安心して生活できる。 ・工場ではチェックを人がしていた。良いものを作ろうとしていることは、お客さんだけでなく、まちの自慢になる。 | <p>□地図</p> <p>地域の販売や生産と自分の関わり</p> | <p>※これまで学習した店や工場について地図に位置付けながら話し合いを進める。</p> <p>◇地域の店や工場は、地域や自分たちの生活と結び付いていることを考え、適切に表現している。 【思・判・表③】</p> <p>様々な立場に立って物事を考えられる児童である。手だて①の生産と販売の学習を単元として捉えることで、スーパーや工場があることは自分たちの生活が支えられているということであるという関連を捉えることができた。また、自分の事としてだけでなく、地域という広い視野で考えることができていた。</p> <p>自分の地域をまちとして広く捉えることができた児童である。手だて②の根拠を明確にした話し合いを繰り返すことで、生活を支えていること、消費者の声を聞きながら工夫をしていることなど、地域社会と自分とのつながりを他の児童の意見を聞きながら意識することができた。</p> |
|--|--|-----------------------------------|---|

VI 研究の成果

○ 小単元のつながりを意識した計画的な指導

- ・「活用のデザイン図」を作成し、教師が小単元のつながりを大切にして指導を行った結果、児童の振り返りには「工場で働く人は店で働く人と同じように～」 「消防士にも警察官にも共通していたのは～」 という記述が見られた。これは、児童が第一小単元と第二小単元を通して社会的事象の特色や相互の関連を考えるようになった姿と捉えている。また、アンケート結果からは、観察・調査や資料活用の仕方を理解したことにより、児童が見通しをもって学習に取り組めるようになった姿も見られた。

| | よくあてはまる | ややあてはまる | ややあてはまらない | あてはまらない |
|----------|---------|---------|-----------|---------|
| 5月 → 11月 | 10%→47% | 40%→40% | 37%→10% | 13%→3% |

【どうやって調べるか、調べ方が分かりますか。(見通しについて)】

第3学年及び第4学年児童104名を対象にした事後アンケート結果より

- ・「単元のオリエンテーション」と「単元のまとめ」を設定したことで、例えば内容(3)において「飲料水の確保」と「廃棄物の処理」を個別の学習として捉えるのではなく、どちらの社会的事象も、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っている対策や事業であると理解するようになった。これは、自分と地域社会のつながりを考えることができた姿と捉えている。

地域と自分とのつながりを考えた児童の記述

第3学年実践事例「販売・生産 単元のまとめ」より

- ・お店や工場があるとすごく便利で、ぼくは店や工場があるから幸せにくらせます。
- ・たくさん品物がおいてある店や、世界に飛び出す工場などがある中野に住んでいるのはとても誇らしいです。

第4学年実践事例「飲料水の確保・廃棄物の処理 単元のまとめ」より

- ・水やごみに関わる人たちに頼ってばかりじゃなくて、資源を大切にするなど協力をしたいです。
- ・ふだん使う水や出すごみは、いろいろな人たちの力が集まってつくられたり、処理されたりしていることが分かりました。私も地域のために考え、水を大切に、ごみをへらしていきたいです。

○ 根拠を明確にした話合い

- ・話合いの中で適宜、児童への問い返しをしたり、児童の語り出しを聞き分けて板書の整理に生かしたりしてきた。その結果、「なぜか」というと「や」、「その理由は」という話型を用いて発言する児童の姿が見られるようになった。これは、根拠を示しながら発言することを児童が意識するようになった姿と捉えている。

第4学年実践事例「飲料水の確保・廃棄物の処理 単元のまとめ」より

私たちの健康で住みよいくらしをささえるために、水やごみに関わる人たちだけでなく、それ以外の仕事をしている人たちも協力をして働いている。**そう考えた理由は、**水道水を作るためにはいろいろな施設があるけれど、それぞれの場所で、第一に私たちのことを考えて同じ思いで働いていたからです。だから、私たちもそれぞれの仕事がやりやすくなるように、協力をしないといけないと思う。

VII 研究の課題

単元のオリエンテーションと単元のまとめを設定したことは、児童が地域と自分とのつながりについて考える手だてとして有効であった。今後は、「単元のオリエンテーション」において、児童が地域と自分とのつながりを意識できる発問や資料の吟味、単元のまとめにおいて、社会的事象についての特色や相互の関連を考えることができる学習活動の在り方等を検討する必要がある。

習得した知識、概念の明確化を図ることを通して、国土や産業と国民生活との関連について考える児童を育成するための指導の工夫

I 研究主題設定の理由

平成27年7月に実施された「児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都教育委員会）」では、社会的事象についての知識・理解に関する項目の正答率が44.7%、意図や背景、理由を推論、解釈、理解して解決する力に関する項目の正答率が32.8%と、他の項目に比べて低いという実態が見られた。

また、本研究が本年度の1学期に実践した「自然条件から見て特色ある地域の人々の生活」の学習において、児童の振り返りを分析した結果、「海津市では水害からくらしを守るために高い堤防を作った」、「豊富な水を利用して農業を営んでいる」など、一単位時間で学んだ事実については理解できていた。しかしながら、「気候や地形に特色のある地域で生活する人々は、くらしや産業にどのような工夫をしているのだろう」という学習問題に対する自分の考えを書かせると、「水害対策をしてくらしを守っている」など、調べる段階で習得した事実の一部を根拠とした記述にとどまっており、「地形の特色」や「その特色に適応して生活している」など、事実と事実の関係を考えることで習得できる知識、概念へ迫ることに課題があるという実態が見られた。さらに、事例地と自分たちが住んでいる地域を比較・関連して考えた記述も少なく、自分の生活と結び付けて考えることに課題があるという実態も明らかになった。

そこで本研究では、追究の段階で「児童が習得した知識、概念の明確化を図ること」、小単元のまとめや単元の終末において、「習得した知識、概念を基にして、総合的に自分の考えを述べること」、「国土や産業と国民生活との関連について考えること」が重要だと考え、以下の3点について研究を進めていくこととした。

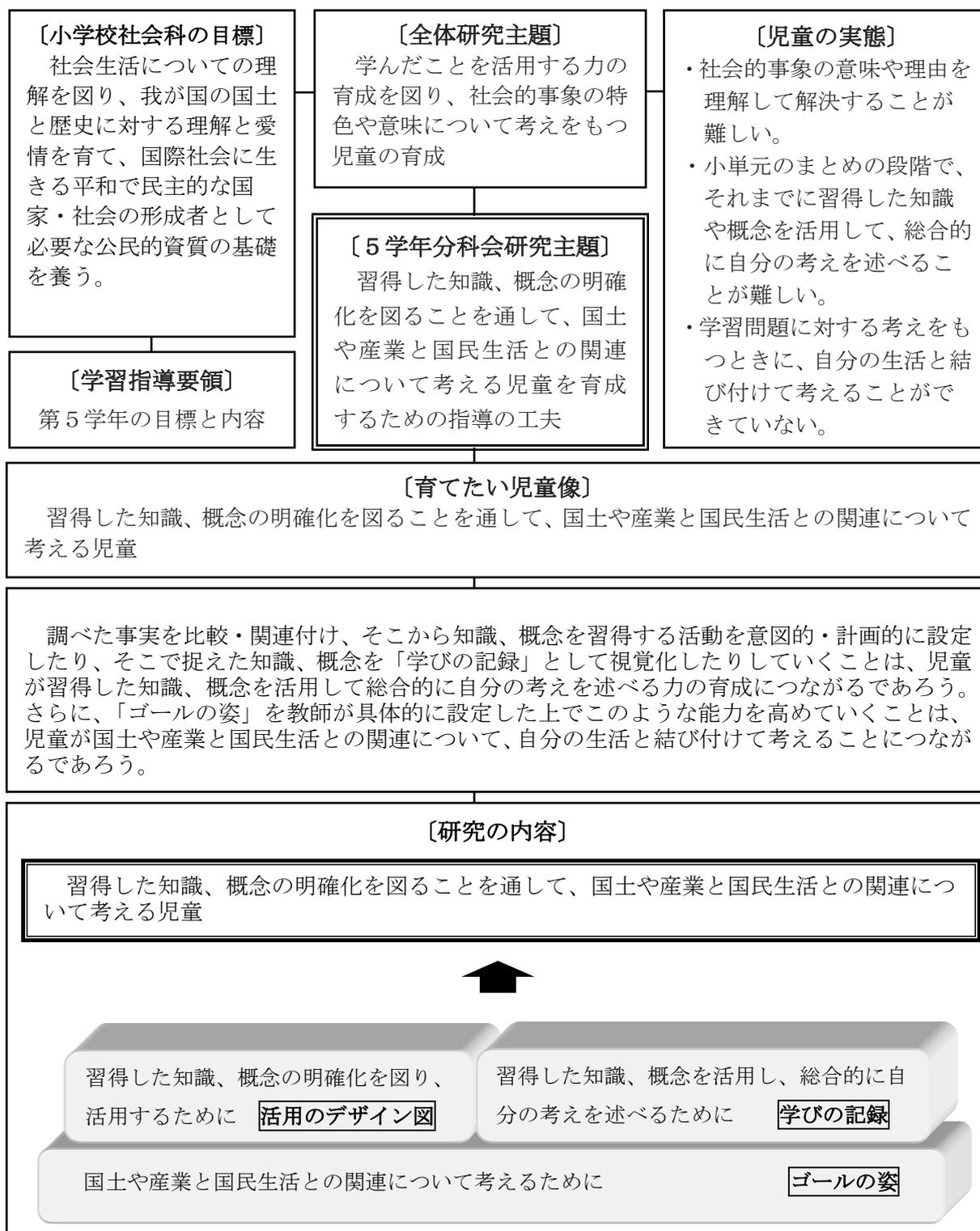
- ① 単元内において、知識、概念の明確化を図るとともに、更に既習の知識や概念を本小単元のどの段階で活用できるか、整理した「活用のデザイン図」を作成する。
- ② 調べた事実を比較・関連付けながら知識や概念を習得させ、それらを活用して総合的に自分の考えを述べさせるために、習得した知識、概念を「学びの記録」として視覚化させる。
- ③ 国土や産業と国民生活との関連について考えさせるために、小単元や単元のまとめにおいて、本研究を通して児童に表現させたい内容を、「ゴールの姿」として具体的に設定する。

以上のことから、本研究では主題を「習得した知識、概念の明確化を図ることを通して、国土や産業と国民生活との関連について考える児童を育成するための指導の工夫」と設定した。

II 研究の仮説

調べた事実を比較・関連付け、そこから知識、概念を習得する活動を意図的・計画的に設定したり、そこで捉えた知識や概念を「学びの記録」として視覚化したりしていくことは、児童が習得した知識、概念を活用して総合的に自分の考えを述べる力の育成につながるであろう。さらに、「ゴールの姿」を教師が具体的に設定した上でこのような能力を高めていくことは、児童が国土や産業と国民生活との関連について、自分の生活と結び付けて考えることにつながるであろう。

Ⅲ 研究構想図



Ⅳ 研究の内容

1 習得した知識、概念の明確化を図り、活用するために

「活用のデザイン図」の作成（13ページ参照）

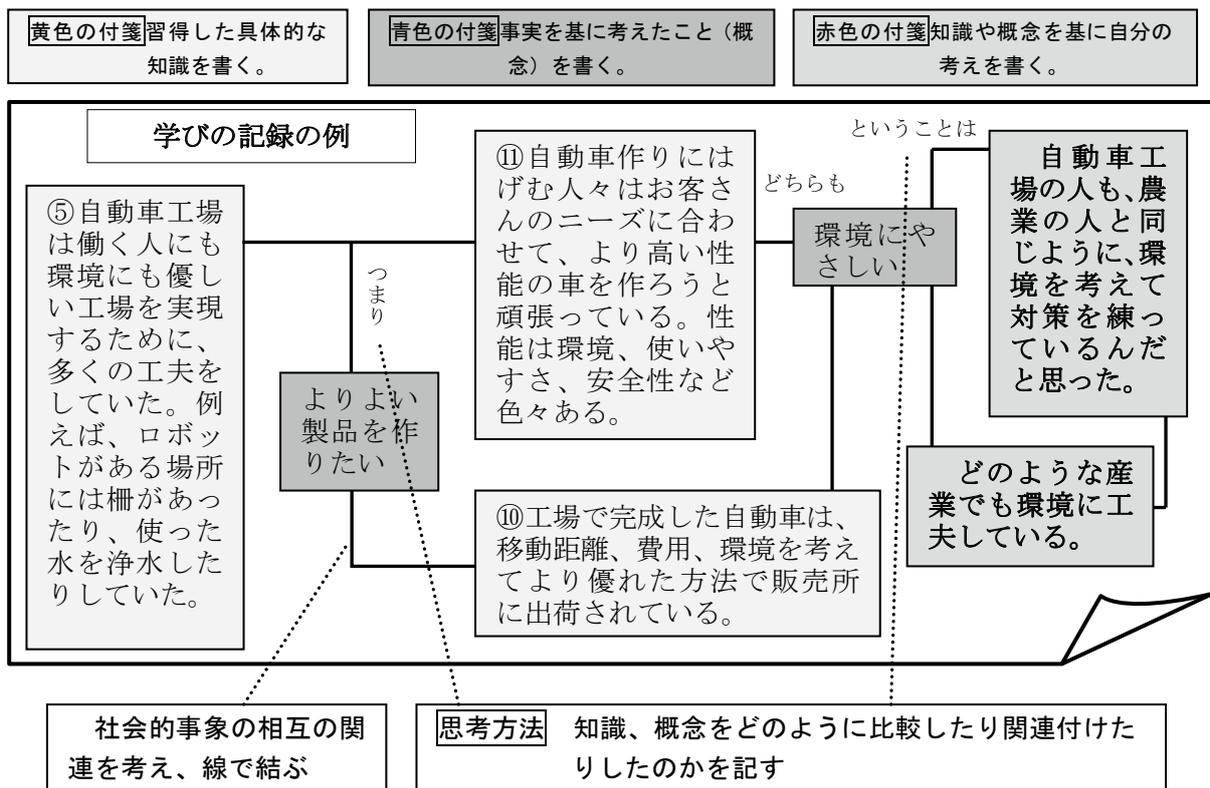
単元全体の中で、第一小単元のどこでどのような概念を習得させ、その概念を第二小単元のどこで活用させるのかをまとめたものが「活用のデザイン図」である。活用のデザイン図を作成することにより、教師は小単元間で活用できる項目を明確にし、指導計画を考えるこ

とができる。また、単元の導入時に「単元のオリエンテーション」、単元の終末に「単元のまとめ」を設定した。このような活動を設定することで、児童が単元全体を通して社会的事象の意味を考えることができるようにした。

2 習得した知識や概念を活用し、総合的に自分の考えを述べるために

「学びの記録」の作成（下図参照）

児童が小単元のまとめの段階で、習得した知識、概念を活用して総合的に自分の考えを述べるためには、見通しをもって学習を進めるだけではなく、社会的事象の相互の関連を理解し、概念を習得させる活動を設定する必要があると考えた。そこで、本研究では、毎時間の学習後、習得した知識、概念を整理し、色分けした付箋に書かせることとした。



習得した知識は黄色の付箋に書かせ、学びの記録に貼らせることとした。そして、黄色の付箋を比較・関連付けすることで導き出した概念をキーワード化して青い付箋に書き、学びの記録に貼らせた。さらに、黄色と青の付箋の関係を捉えた上で自分の考えを赤の付箋に書かせた。この活動を行うことにより、児童は習得した知識や概念と自分の考えの関係を視覚的に振り返ることができるとともに、小単元のまとめの段階で総合的に自分の考えを表現する際にも、活用できると考えた。

3 国土や産業と国民生活との関連について考えるために

「ゴールの姿」の設定

児童が国土や産業と国民生活との関連について考え、表現できるようにするために、小単元や単元のまとめにおいて、本研究を通して児童に表現させたい内容を、「ゴールの姿」として具体的に設定した。教師が具体的に「ゴールの姿」を設定した上で指導を行っていくことは、児童が社会的事象と自分の生活とを結び付けて考えることにつながると考えている。

V 実践事例

1 活用のデザイン図 「食料生産を支える人々」

| |
|-----------------------------|
| 【単元のオリエンテーション】 「食料生産を支える人々」 |
| ・食料生産物の産地調べ |

| 第一小単元 「米づくりのさかんな地域」 | |
|--|--|
| 知識、概念 | 技能・学び方（方法） |
| <ul style="list-style-type: none"> ・産業と自然条件との関連 ・運輸の働き | <ul style="list-style-type: none"> ・人々の工夫や努力 ・悩み、新たな取り組み |
| <p>「学びの記録」の作成（比較、関連、総合して考える）</p> | |
| <p>農家の人たちは、地域の自然条件を生かしながら、様々な工夫や努力をしておいしく安心して食べられる米をつくっていて、私たちの所に届けられている。環境を守りながら国内での米づくりを続けていこうとしている。</p> | |

第二小単元で活用

| 第二小単元 「水産業のさかんな地域」 | | | |
|--------------------|---|---|---|
| | 学習活動 | 知識、概念 | 技能・学び方（方法） |
| つかむ | 疑問 | | |
| | 学習問題 北海道根室市ではどのようにさんまをとり、新鮮なままわたしたちのもとにとどけているのか | | |
| | 見通し 予想・計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・産業と自然条件との関連 ・人々の工夫や努力 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの記録」（農業）やノートを振り返る（農業の学習を生かした学習問題に対する予想、学習計画） |
| 調べる | 収集 読み取り 分析 | <ul style="list-style-type: none"> ・運輸の働き ・悩み、新たな取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの記録」（水産業）の作成（獲得した知識や考えを視覚化。前時までに獲得した知識や理解をつなげる） |
| まとめる | 調べたことや考えたこと構成 | | <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの記録」（水産業）やノートを振り返る。（獲得した知識や考えを総合してまとめる。） |
| | 学習問題に対する考え | <p>水産業のさかんな地域では、魚の習性や自然環境を生かして船の設備やとり方を工夫していたり、安全で新鮮なまま消費地に送るよう努力していたりする。東京でも新鮮でおいしいさんまやマグロを食べることができるのは、漁師さんたちの工夫や努力のおかげ。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの記録」（農業、水産業）やノートを振り返る。（習得した知識や概念を総合してまとめる。） |
| | 食料生産の特色を考える。 | <p>我が国の農業や水産業は、どちらも自然環境と深い関わりをもって行われており、米を生産している人や魚をとったり育てたりしている人や、私たちのところに運んでいる人など、たくさんの人たちの工夫や努力のもとで成り立っている。農業や水産業が安定して安全な食料資源を確保する重要な役割を果たしており、私たちの食生活を支えてくれている。</p> | |

| 単元のまとめ 「これからの食料生産」 | |
|---|--|
| 知識、概念 | 技能・学び方（方法） |
| <ul style="list-style-type: none"> ・産業と自然条件との関連 ・運輸の働き | <ul style="list-style-type: none"> ・人々の工夫や努力 ・悩み、新たな取組 |
| <p>「学びの記録」の作成（食料生産）</p> | |
| <p>「学びの記録」（農業、水産業、食料生産）やノートを振り返る（獲得した知識や考えを総合してまとめる。）</p> | |
| <p>農業や水産業など食料生産に携わる人たちののおかげで私たちの食生活が支えられている。また、食料の中には外国から輸入しているものがあり、豊かな食生活が成り立っている。我が国には食料生産に関して様々な問題もある。安心して食べられる食料を安定して確保するために、これからの食料生産について考えていくことが大切である。</p> | |

2 小単元の目標

我が国の水産業の発展に関心をもち、水産業が自然環境を深い関わりをもって営まれていることや、水産業に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働き、水産業が安定して安全な水産資源を確保する重要な役割を果たしていることなどを調べることを通して理解し、国民生活を支えている我が国の水産業の重要性について考えようとしている。

3 実践(全10時間) 児童の反応 分析

| | 学習のねらい | ○主な学習活動 知識、概念 一単位時間の期待するゴールの姿 | □資料・準備 ★活用<思考方法> | ※指導・支援 □資料・準備 ◇評価【観点】 |
|--|---|--|---|--|
| つかむ(二時間) | ①水産物と自分たちの生活との関わりに関心をもち、根室のさんまについて調べ、学習問題を見いだす。 | ○日本は外国と比べて水産物の消費量が多いことから、私たちの生活には水産物が欠かせないことを捉える。 ○白地図、グラフ、写真から、根室港のさんま漁について分かった事実を読み取り、疑問や調べたいことをノートに整理し、発表し合う。 ○学習問題を見いだす。 | | ◇さんまの写真、「根室さんま祭り」「一本立ち歯舞さんま」の写真 ◇我が国の水産業や根室港のさんま漁について関心をもち、意欲的に調べている。 【関・意・態①】 |
| | 【学習問題】 水産業のさかんな地域では、どのように水産物を取り新鮮なままわたしたちのもとにとどけているのだろうか。 | | | |
| | ②米づくりの学習を生かして、学習問題に対する予想と学習計画を立てる。 | ○学習問題の予想をする。 →米づくりの学習の 学びの記録 を見て、視点を整理しながら予想する。 ○予想したものを短冊に書き、黒板に整理することを通して調べる視点を明確にし、学習計画を立てる。 ①自然条件 ②人々の工夫や努力 ③運輸の働き ④人々の悩み ⑤漁業の工夫や努力 ⑥これからの水産業の在り方 | □米づくりの学習の 学びの記録 を見る。 ★米づくりの学習<整理・分類>自然条件との関わり・工夫や努力・運輸・悩み・これからの米づくり | □短冊 ※米づくりの学習を生かして視点を明確にできるようにする。 ◇我が国の水産業の様子について、学習問題の予想、学習計画を考え、表現している。 【思・判・表①】 |
| | 米づくりのようにちゃんと順番があると思う。カントリーエレベーターみたいに 新鮮な状態で保っている と思う。より安全に家庭に送れるように 環境や安全面に 配りよして行われていると思う。より遠く届けるために米づくりと似ていて 機械 を使っていると思う。 | | 同じ生産活動である米づくりの 学びの記録 を見て、知識や概念を活用することで、視点を整理・分類しながら予想をし、学習計画を立てることができた。学習問題の解決に向けての見通しをもつこともできた。 | |
| ③水あげ量の多い漁港や日本の近海の海流を調べ、海流などの自然環境との関係から、根室港がさんまの水あげ量が多い理由を考える。 | ○根室港がさんまの水あげ量が多い理由を、漁獲量分布図やさんまの習性などから関連付けて考える。 ○学習の振り返りを 学びの記録 に整理する。 「なぜ根室港はさんまの水揚げ量が多いのだろうか。」 さんまは冬から春にかけて北へ進み、産卵のため南へ進む。プランクトンの多い親潮に乗って進んでいるが、根室港はその親潮が近くを通っている。 水産業もそれぞれの魚の習性や海流など 自然条件 を生かして行っているんだと考えた。 | □ 学びの記録 を見る。 ★米づくりの学習<比較>気候や地形の特徴を生かしている。 | □日本の主な海流とさんまの漁獲量分布図 □さんまの習性(全国さんま棒受け網漁業組合) ◇我が国の主な漁港や漁場の分布と海流などの自然環境との関わりを理解している。 【知・理①】 ◇さんま漁が自然環境を生かして営まれていることについて、調べたことを関連付けて考え表現している。 【思・判・表②】 | |
| さんまの習性と初夏ごろに豊富になるプランクトンを求めて根室周辺にさんまが集まる。習性と豊富になるプランクトンを利用してさんまを取っていると思う。 | | 米づくりの学びから、「水産業も気候や地形の特徴を生かして行っているだろう」と予想をした。そのため、漁港や漁場と、魚の習性や海流などの自然条件との関係を見いだすことができた。 | | |
| ④さんま漁の様子を調べ、漁師の人たちは様々な工夫や努力をしながらさんま漁を進めていることを理解する。 | ○2枚の漁船の写真から、さんまをとる仕事について予想をする。 ○資料を活用し、「棒受け網漁法」や漁船の設備、漁師の工夫や努力についてわかった事実を読み取り、ノートに整理する。 ○学習の振り返りを付箋に書き、 学びの記録 に整理する。 「どのようにして漁師の人たちはさんまを取る仕事をしているのだろうか。」 漁師の人たちは、さんまが光に集まる習性を生かして船の設備を工夫し、棒受け網漁というとり | □ 学びの記録 を見る。 ★米づくりの学習<比較>稲作農家の人たちは様々な工夫や努力をしている。 ★③の学習<比較>③さんまの習性や海流を生かし | □漁船の写真(昼と夜) □DVD「海の恵みと日本人 サンマ」 □「棒受け網漁法」について記載されている資料 ※DVDを見た後に紙面の資料を見るようにし、整理しやすくさせる。 ◇写真や映像資料を活用 | |

| | | | | |
|----------------------------------|---|--|---|--|
| | | <p>方も工夫している。長年の経験も生かして、いろいろな努力をしている。</p> <p>漁師の人たちは魚の習性を生かして工夫や努力をして魚をとっていて、すごく考えているんだなと思った。</p> <p>○<u>学びの記録</u>は、前時のものと比較・関連させながら、つなげることは線でつなげておく。</p> | <p>た漁場があったり漁師の人たちがとったりしている。</p> | <p>して、さんま漁について必要な情報を適切に読み取っている。【技①】</p> <p>◇さんまをとる仕事に従事している人々の工夫や努力について理解している。【知・理②】</p> |
| | <p>さんまの習性を利用してライトをうまく使って取っている。魚群探知機や漁師さんの長年の勘を使ってさんまをとっている。漁師さんの勘は天候などの条件を感じているんじゃないかと思う。さんまには様々な習性があり、漁師さんはそれを考えてとっているんじゃないか。</p> | <p>前時に習得した「魚の習性を生かして漁場を決めている」という知識と、本時に習得した「魚の習性を利用して漁師が漁法を工夫している」という知識を結び付けて考えている児童が半数を超えていた。事実と事実を比較・関連付け、関係を捉えることができた。</p> | | |
| <p>調べる（六時間）</p> | <p>⑤⑥水あげされたさんまが根室港から自分たちのもとに届くまでの様子を調べ、鮮度を保つよう工夫や努力をしながら出荷や輸送の仕事を進めていることを理解する。</p> | <p>○30年程前、東京都で食べることができなかったさんまの刺身を、食べることができるようになった理由を予想する。</p> <p>○写真を並べ、ルートを予想する。</p> <p>○出荷に携わる人々の仕事や、産地と消費地を結ぶ流通、輸送の働きについて、資料を活用して分かった事実を読み取り、写真を活用してノートに図解する。</p> <p>○学習の振り返りを付箋に書き、<u>学びの記録</u>に整理する。</p> <p>「なぜ、30年前には東京で食べることができなかったさんまの刺身が、今は食べることができるのだろうか。」</p> <p>30年前より、輸送する技術が上がり、さんまを安全で新鮮なまま根室から東京まで送ることができるようになった。さんまは、とれる時期によってせりつく値段が変わっている。作業の過程で様々な費用がかかっている。米と同じように、新鮮さを保つ工夫をしてくれているから、おいしく安心して食べる事ができている。</p> <p>○<u>学びの記録</u>は、前時の記録と比較・関連させながら、つなげることは線でつなげておく。</p> | <p>□<u>学びの記録</u>を見る。</p> <p>★米づくりの学習<比較></p> <p>米は保管や輸送の工夫をしている。</p> <p>★④の学習<比較></p> <p>漁師の人も運ぶ人も、新鮮さを保ったままさんまをとったり運んだりする工夫や努力をしている。</p> | <p>□さんまの刺身の写真、「北海道の生活物資輸送と漁港の関わり」</p> <p>□漁港での仕事の様子を表す写真・店頭の様子を表す写真</p> <p>□さんまの値段についての表</p> <p>□DVD「海の恵みと日本人 サンマ」</p> <p>◇写真や映像などの資料を活用して、さんまの出荷や輸送について必要な情報を集め、読み取っている。【技能①】</p> <p>◇さんまを出荷する人や輸送する人の仕事に従事している人の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きについて理解している。</p> <p>【知・理②】</p> |
| | <p>さんまを傷つけないようにいねいに箱詰めをしたり、鮮度を保つための工夫がたくさんある。昔の人は北海道でとれた魚を他の人にも食べさせたくても送れなかったんだと思う。さんまもお米といっしょで食卓に届くまで、たくさんの人と手間がかかっているんだなと思った。つまり、サンマをとった後は丁寧に作業して出荷していることが分かった。</p> | <p>前時の学びと比較・関連させて「漁にも輸送にも工夫がある」と考える児童、米の輸送と比較・関連させて「同じように工夫がある」と考える児童が見られた。<u>学びの記録</u>を見ることで、習得した知識、概念を活用して考える児童が増えてきた。後者からは、食料生産という広い視野で捉えることができるようになってきていると考えられる。</p> | | |
| | <p>⑦水産業の生産量や働く人の数の推移、200海里水域などを調べ、水産業に携わる人々の悩みについて考える。</p> | <p>○四つのグラフや地図からそれぞれ事実を読み取り、その事実を根拠に、水産業に携わる人々の悩みや願いを考え、ノートに書く。</p> <p>○話し合いを通して、今後、どうしていけばいいのか、自分の考えをノートに書く。</p> <p>○学習の振り返りを付箋に書き、<u>学びの記録</u>に整理する。</p> <p>「水産業にたずさわる人たちはどんなことで悩んでいるのだろうか。」</p> <p>200海里水域の問題や水産資源の減少などにより日本の水産業の生産量は減ってきていて、輸入にもたよっている。水産業で働く人はだんだん減ってきている。米づくりと同じように水産業でも多くの悩みを抱えている。このままでは食べられなくなるので、改善しないと大変だ。</p> <p>○<u>学びの記録</u>は、前時の記録と比較・関連させながら、つなげることは線でつなげておく。</p> | <p>□<u>学びの記録</u>を見る。</p> <p>★米づくりの学習<比較></p> <p>米づくりをする人がだんだん減っていたり、外国から輸入される量が増えていたりして、米づくり農家の人たちは悩みがある。</p> | <p>□「200海里水域と日本の漁業の生産量」の地図</p> <p>※北方領土の問題にも触れる。</p> <p>◇地図、グラフなどの資料を活用して、我が国の水産業の抱える問題について必要な情報を集め、読み取っている。【技能①】</p> <p>◇我が国の水産業が抱えている問題について調べたことを基に、水産業に携わる人たちの悩みについて考え、表現している。</p> <p>【思・判・表①】</p> |
| | <p>水産物を食べる人が減っていて輸入も増えてきて、漁師さんもお年寄りや、北方領土の近くの海ではとる量も制限されている。北方領土を返してほしいなどの悩みがあるので、改善していくために若い人たちも漁をやったほうがいい。全体的に年々漁師さんは減っていつているので、それは米作りとも同じだと思った。</p> | <p>同じ生産活動である米づくりの学習から習得した知識と比較しやすく、食料生産が抱える悩みを総合的に捉えることができる時間として設定したが、用意した資料によって、北方領土へ向けられた関心が高くなった。既習内容の提示や資料の出し方を工夫し、米づくりと同じ視点で考えられる資料の提示が必要だった。</p> | | |
| <p>⑧クロマグロの養殖について調べ、養殖業に携わる人は</p> | | <p>○クロマグロについて知り、考えたことを話し合う。</p> <p>○写真から、クロマグロの養殖業について知る。</p> | <p>□<u>学びの記録</u>を見る。</p> <p>★④の学習<分類・整理></p> | <p>□日本のクロマグロの消費量についての資料、養殖したクロマグロの写真、資料</p> |

| | | | | |
|------------|--|--|---|--|
| 調べる (六時間) | <p>自然環境を生かしながら、質がよく安全な魚を安定して育てるために工夫や努力をしていることについて考える。</p> | <p>○クロマグロの養殖について、資料を基に調べ、ノートに整理し、特に学級で共有したいことについて、話し合う。</p> <p>○学習の振り返りを書き、学びの記録に整理する。</p> <p>「大学の水産研究所の人たちは、どのようにクロマグロの養殖に取り組んでいるのだろうか。」</p> <p>水産研究所の人たちは、失敗を繰り返しながらも、食卓にクロマグロを届けようと、32年もかかって養殖に成功した。また、魚の習性や自然環境をいかにしながら、安定して魚を育てることができるよう努力をしている。おいしい魚を食べ続けられるために、研究所で働く人は頑張ってくれているのだな。</p> <p>○学びの記録は、前時のものと比較・関連させながら、つなげることは線でつなげておく。</p> | <p>・工夫や努力</p> <p>・自然条件・習性</p> <p>★④の学習<比較></p> <p>漁師は、さんまの習性や海流を生かして、新鮮なままさんまをとる工夫や努力をしている。</p> <p>★④⑤⑥の学習<関連></p> <p>漁師の工夫や努力でおいしい魚が食べ続けられる。</p> <p>★米づくりの学習<比較></p> <p>工夫や努力をして米を育てている。</p> | <p>※学びの記録を見て、調べ学習を進めるようにさせ、根室のさんま漁での学びを生かして視点を絞るようにさせる。</p> <p>◇クロマグロの養殖について、調べたことを基にとる漁業と関連付けて考え適切に表現している。【思・判・表①】</p> <p>◇養殖業は安定して安全な水産資源を確保する役割を果たしていることを理解している。【知・理③】</p> |
| | <p>大学の人たちは自然に近くクロマグロに合った環境で、マグロを増やしたいという思いをもって養殖をしている。クロマグロが絶めつきぐになり、ぼくたちが食べることができるようになって感謝しなきゃなと思った。近畿大学の人たちは、クロマグロをが育ちやすい環境を研究し、さんまをとる人たちはさんまの住みやすい環境を定説にしていた。つまり、魚に関わる人たちは、環境を守りたいという思いがあるのではないか。</p> | <p>視点を明確にできた児童は、既習の知識・概念を活用して考えることができたので、個人作業より学級全体で、視点を明確にすることが有効だったと考えられる。また、クロマグロの養殖のついては、これからの水産業の取組の一例として扱った方が効果的だった。</p> | | |
| まとめる (二時間) | <p>⑨学習問題に対する自分の考えをまとめ、これからの水産業を考える。</p> | <p>○水産業の現在の様子が分かったところで、これからの水産業について自分の考えを書き、話し合う。</p> <p>○学習問題に対する自分の考えを書く。</p> <p>→これまでの学習を学びの記録とノートを見ながら振り返る。特に学びの記録については、わかった事実や考えたことを振り返りながら加除修正し、考えたことを箇条書きにする。</p> | <p>□学びの記録を見る。</p> <p>★本小単元の学びの記録全体<総合></p> | |
| | <p>⑩農業生産と水産業生産で捉えた概念を基に、我が国の食料生産の特色を考える。</p> | <p>○我が国の水産業生産の特色について、まとめる。</p> <p>○農業生産と水産業生産の学習を通して獲得した概念を比較して共通点を見だし、我が国の食料生産にはどのような特色があるか考え、ノートにまとめる。</p> | <p>□学びの記録を見る。</p> <p>★本小単元学びの記録全体<比較・関連></p> <p>★米づくりの学びの記録全体<比較・関連></p> | <p>□学びの記録(米づくりと水産業)</p> <p>◇調べたことを整理し、学びの記録にまとめている。【技能②】</p> <p>◇国民生活を支えている我が国の農業や水産業の重要性について考えようとしている。</p> <p>【関・意・態②】</p> <p>◇我が国の水産業について、農業と関連付けて考え適切に表現している。【思・判・表②】</p> |

VI 研究の成果

- 児童の作成した「学びの記録」を分析した結果、多くの児童が習得した知識、概念を活用して、総合的に自分の考えをまとめることができるようになった。また、学習問題に対する自分の考えを考える際に「学びの記録」を活用したことで、これまでの学習で学んできたことを振り返りやすくなった。さらに、青い付箋に書かれた内容をキーワードとして、自分の考えを述べさせたことで、「つまり」や「まとめると」などの言葉を用いて、根拠を示しながら自分の考えを述べるようになるようになった。

【実践事例】「自動車づくりにはげむ人々」

学習問題
自動車工業にたずさわる人々はお客さんの注文に合わせた自動車をどのようにつくり、届けているのだろうか。

黄の付箋（習得した知識）
自動車づくりはラインを使ってすばやく進められ機械と人がやる作業を分ける工夫もしている。

赤の付箋（自分の考え）
ロボットは、人にとって危険な作業や力がある作業を正確にできるから効率よく自動車をつくるには必要なことだと思う。

青の付箋（概念）
無駄な時間をはぶく。効率化。

学びの記録

学習問題に対する自分の考え
自動車工業にたずさわる人たちは、効率よく作業するためにたくさんの工夫をしていた。自動車工場は、立地条件を考え、人とロボットで役割分担をすることで正確につくっていた。ラインに沿って作業したり、関連工場とジャストインタイム方式でつながっていたりするなど、すばやく自動車をつくらせていた。そして、工場ではつくるだけでなく、人にも環境にも優しい工場にしている。他にもお客さんのニーズに合わせてたくさんの自動車を開発している。自動車を運ぶ時は環境のことを考えながらもより早く運ぶ方法で運んでいる。まとめると、お客さんのことを考えて協力しながら私たちのもとに自動車を届けていた。ぼくはふだん自動車なしでは生活できない。こんなに苦労して自動車をつくり、運んでいたのが感謝したいと思った。

- 「活用のデザイン図」を作成することで、第一小単元と第二小単元の小単元構成を意識的に共通させることができた。そのため、単元のまとめの段階で、児童が第一小単元と第二小単元の「学びの記録」を比較したり、関連付けたりすることが容易となり、自分の考えを整理して述べるようになるようになった。

実践事例「米づくりのさかんな地域」「水産業のさかんな地域」より（「我が国の食料生産」についての考えを記録したもの）

児童の反応（国民生活との関連）

わが国の農業や水産業は農家や漁師の工夫と努力でぼくたちの食生活が成り立っている。食たくに安心・安全な食べ物が届くようにして、届くまでにもたくさんの人の工夫や努力がある。さらに、環境を守りたいという思いもあることが分かった。ぼくたちはそんな食生活を支えてくれている人たちに感謝しなければならない。だが、後継者が少ない、消費量がへっているというなやみもある。そのなやみを解決するための工夫や努力をしているため、わが国の食生活が成り立っていると思った。

VII 研究の課題

- 知識や概念、自分の考えを付箋の色を変えて書いたり、書く活動の間に交流活動を行ったため、活動を習熟するまでに時間を要した。児童の実態に合わせて指導する方法を工夫する必要がある。
- 事実を比較、関連付けるなどして習得した知識、概念の明確化を図る際、どの事実や言葉に注目させるとよいか、その際に有効な発問は何かについて、検証を行っていく必要がある。

社会的事象について多面的に捉え、 より広い視野から考える児童を育成する指導の工夫

I 研究主題設定の理由

第6学年の社会科では、(1)我が国の歴史上の主な事象について(以下「歴史学習」という。)、(2)我が国の政治の働きについて(以下「政治学習」という。)、(3)世界の中の日本の役割について(以下「国際理解学習」という。)を学習する。主題の設定にあたり、研究員が担任をしている学級において児童のノート等の分析を行ったところ、「聖徳太子はどのような国づくりを行ったのだろう。」という学習問題に対し、「十七条の憲法を作った。」「冠位十二階を使った国づくりを行った。」などのように具体的な事実を学習問題に対する自分の考えとして述べるにとどまり、「天皇中心の国づくりを目指した。」という歴史的事象の意味まで理解することができていない児童が半数以上を占めた。また、室町文化の学習では、学習問題に対する予想や学習計画を考える場面で、既習事項である「日本風の文化が起こった。」という知識を活用している児童が半数に満たないという実態があった。これらの結果から、本研究では、学習したことを活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考える力を育成するための授業改善が必要と考えた。

本研究では、全体研究主題の「社会的事象の特色や意味について考えをもつ。」ことができていない児童とは、「社会的事象の意味をより広い視野から考えられる」児童と捉えた。そして、「広い視野から考える。」とは、小学校学習指導要領解説 社会編を参考に①先人の業績や代表的な文化遺産について、それらが我が国の国家・社会の発展に果たした役割や文化遺産のもつ意味を考える力②国民生活と民主政治の関係について、政治は国民生活の安定と向上に役立っていることを考える力③国際社会の一員としての立場から平和な国際社会の実現のための我が国の役割を考える力を身に付けた児童と定義した。その上で、児童が「より広い視野から考えられる」ようにするためには、既習の知識や概念も活用しながら問題解決的な学習の充実を図り、社会的事象の意味を考えさせることが必要であると考えた。

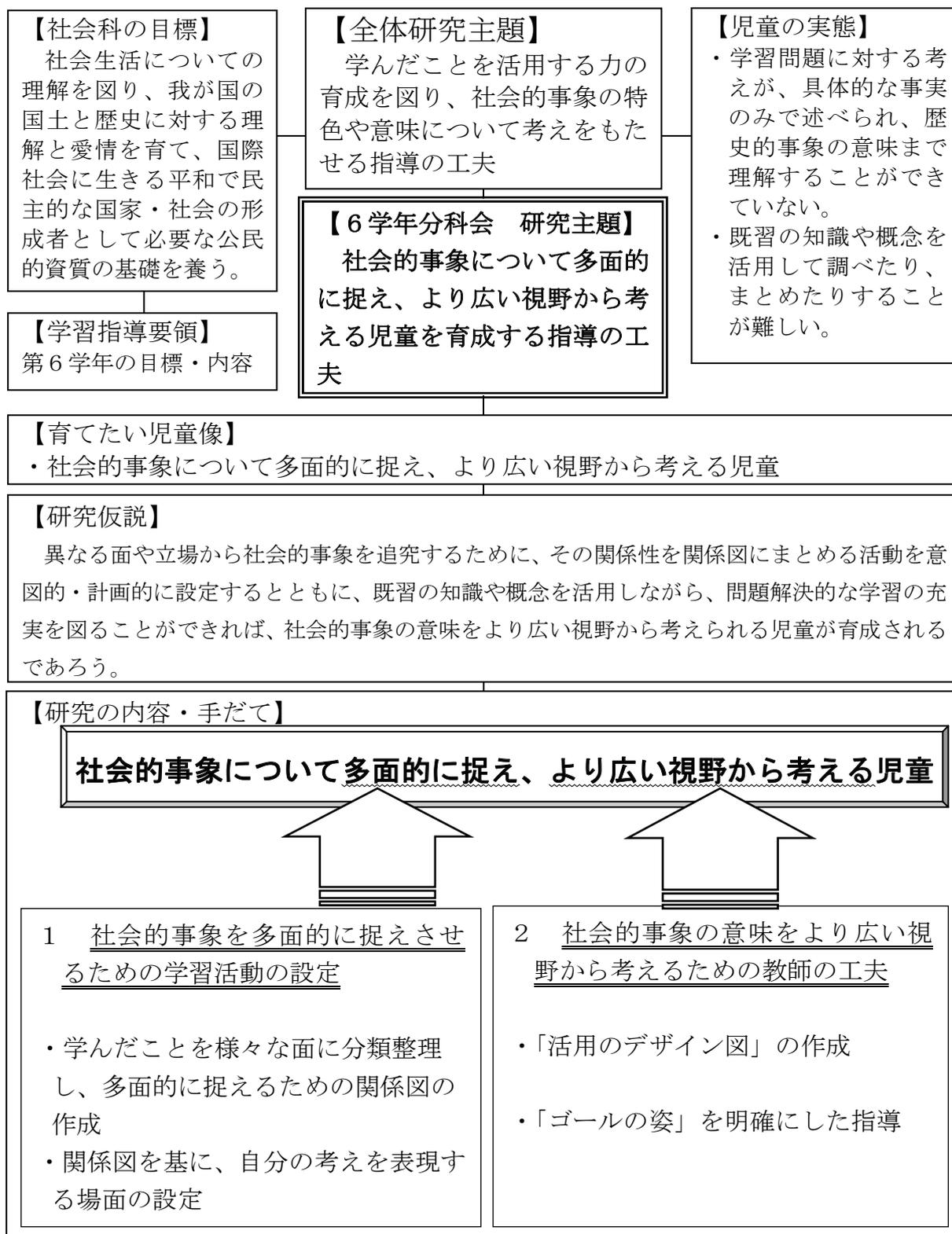
また、「多面的に捉える」とは、「ある事象について調べたことを様々な面や立場からまとめること」と定義した。そのために①既習の知識や概念のうち、現在の学習で何が活用できるのか②どこでその知識や概念を習得したのかを明確にした活用のデザイン図を作成し、指導を行う。また、歴史的事象を多面的に捉えることができるようにするために、事象の意味を考えさせる際に様々な面や異なる立場ごとに事象を分類し、その関係性を捉えさせる関係図を書かせていくこととした。

このように本研究では、異なる側面や立場から社会的事象を追究し、その関係性を関係図にまとめる活動を意図的・計画的に設定するとともに、既習の知識や概念を活用しながら、問題解決的な学習の充実を図ることで、社会的事象の意味をより広い視野から考えられる児童が育成されることが考え、分科会研究主題を設定した。

II 研究の仮説

異なる面や立場から社会的事象を追究するために、その関係性を関係図にまとめる活動を意図的・計画的に設定するとともに、既習の知識や概念を活用しながら、問題解決的な学習の充実を図ることができれば、社会的事象の意味をより広い視野から考えられる児童が育成されるであろう。

Ⅲ 研究構想図



Ⅳ 研究の内容

1 社会的事象を多面的に捉えさせるための学習活動の設定

(1) 学んだことを様々な面に分類整理し、多面的に捉えるための「関係図」の作成

異なる面や立場から事象を捉えさせるために、調べる段階で明らかになった事実を分類・整理し、関係図にまとめる学習活動を、各小単元のまとめる段階において行った。

関係図の例 内容(1)のイについての学習をまとめた関係図

各内容を矢印で結び、その矢印の意味として人々の思いや願い、社会的事象についての補足説明・原因や結果などを書き加える。ここでは、行基の業績と聖武天皇の詔が、大仏建立に民衆が協力した原因になったことを示す。

相互の関連を捉えることで、異なる立場に立って考えることができ、多面的に捉えることが可能になる。キーワードとなる語句を捉え、それを基に自分の考えをまとめることで、概念を獲得できる。

学習問題
○ 聖武天皇はどのような政治を行ったのか？

政治 (聖武天皇による政治)
○ 次々と都を移す(海や山からの移動)
○ 国ごとに国分寺をたてる
詔(天皇の命令)を出す
○ 大仏をつくる詔を出す

【政治】 天皇や幕府、政府など「政治を行う側の人々」が主語となるものを書き込む。

【くらし・文化】 「人々のくらしや文化など」が主語になるものを書き込む。ここでは、世の中の不安が、聖武天皇の時代の課題であったことを抑える。

○ 病疫や反乱による不安が広がった。
○ 地方の人々のくらしはとてむきがない
理由 → 重い税、貧しい
○ 文化 → 大仏づくり(全国)
○ 正倉院

聖武天皇は、
○ 仏教の力で社会の不安を鎮め、国を治めようとした。
○ 当時の中国「唐」
○ 唐の政治…皇帝中心
○ 日本から多くの僧や役人が政治のしくみや仏教の教えを学びに来る
○ 唐や朝鮮半島に外国から多くの書物や僧侶が日本に渡る
例: 鑑真

最後に、関係図を基に学習問題に対する自分の考えを書かせる。ここでは、仏教がキーワードになっていることから、仏教中心の政治という歴史的事象の意味を理解させる。

【その他】 ここでは、「外国との関わり」を書き入れさせた。他の例として、江戸時代において「大名(「政治」には幕府の政治を記入)」を取り入れた。

(2) 関係図を基に、「自分の考えを表現する場面」の設定

(1) のように関係図を作成した後に、関係図を紹介し合うことで内容をより充実させる活動や、関係図を根拠に示しながら学習問題に対する自分の考えを伝える活動を適宜、設定した。その際には関係図からキーワードとなる言葉を抜き出して自分の考えを表現させるとともに、その根拠についても関係図にある内容から示させるようにした。

※ 上の関係図を作成した児童は、「聖武天皇は、仏教の力で不安を鎮め、国を治めようとしていたと思います。理由は多くの人々に大仏づくりに参加させたり、中国からも鑑真たちを招いたりして、仏教を盛んにしていたからです。」とまとめていた。

2 社会的事象の意味をより広い視野から考えるための教師の工夫

(1) 「活用のデザイン図」の作成

学習指導要領では我が国の歴史に関する学習として、アからケまでの九つの内容が示されている。このアからケを小単元として扱い、各小単元で習得する知識や概念、技能などをそれ以降の小単元でも活用できるようにするために、活用のデザイン図を作成した。既習の知識や概念は、主としてつかむ段階において学習問題に対する予想をしたり、まとめる段階において学習問題に対する自分の考えを表現したりする際に活用させた。また、技能は主に関係図を作成する際に活用させた。また、教師は活用のデザイン図を用いて資料の精選、発問の吟味、学習活動の工夫を行った上で、指導計画を作成した(次項参照)。

(2) 「ゴールの姿」を明確にした指導

歴史学習を通して、課題解決や人々の願いの実現に向けた先人の働き、大切に受け継がれてきた伝統や文化の上に、今の生活があることなどについて考えをもたせるために、各小単元の「ゴールの姿」を明確に設定し、指導を行った。そうすることで、歴史学習全体のまとめにおいて、歴史を学ぶ意味を考える際に、児童が既習事項を根拠として活用することを意図した。

V 実践事例 「明治の国づくりを進めた人々」 第6学年の内容（1）キ

1 活用のデザイン図

| 内容（1）キ 「明治の国づくりを進めた人々」（本小単元 7時間扱い） | |
|------------------------------------|---|
| 学習問題 | 明治政府は、どのようにして新しい国づくりを進めていったのだろうか。 |
| 実際の児童の予想（抜粋） | ・何か新しい制度や仕組みをいつも中国などの国から学んでいたの、今回も外国から学んだのではないかと思った。 イ：遣隋使・遣唐使や渡来人から学ぶ |
| | ・新しい国づくりをするためには、中大兄皇子や徳川家光のように様々なきまりを作ったのではないか。 イ・オ：律令、武家諸法度など、きまりをつくる |
| | ・豊臣秀吉は、検地を行って安定した収入を得ようとしたので、その収入を安定させる仕組みを作ったのではないか。 イ・オ：租・調・庸などの税、太閤検地 |
| | ・人々を学ばせるために学校を作ったのではないか。 カ：寺子屋 |
| | ・外国からたくさんの日本にはない文化が伝わってきたのではないか。 ・平安時代や江戸時代のように日本独自の文化を生み出したのではないか。 イ・エ・カ：外国からの文化が伝わる、独自の文化が栄える |
| 調べること | <ul style="list-style-type: none"> 殖産興業 →官営工場をつくり、産業の発展を目指す。 →近代的な工業を学ぶ。 →外国から技師を招く。 →機械を買う。 徴兵令 ・地租改正 ・廃藩置県 ・五箇条の御誓文 四民平等 ・学制 |
| ゴールの姿 | 明治政府は、大久保利通たちが中心となり、 <u>A 外国からたくさんの技術や文化を取り入れ、B 人々の生活にも大きな影響を与えながら、新しい国づくりを進めていった。</u> |

既習の概念を活用した予想

関係図を作成することによってゴールの姿を出させる。

小単元のゴールの姿（概念）が、次の小単元の予想やゴールの姿に活用される。

前小単元の概念の活用

関係図の作成

| 内容（1）ク 「世界に歩みだした日本」 | |
|---------------------|--|
| 学習問題 | 日本はどのようにして世界に認められる国になったのだろうか。 |
| 予想される児童の予想（抜粋） | ・官営の工場を造り、工業を盛んにしたので、産業が発展したのではないか。 殖産興業によって |
| | ・徴兵令によって作られた軍隊によって戦争をして外国に力を見せつけたのではないか。 徴兵令によって |
| | ・力をつけたので江戸時代に結ばされた不平等な条約を改正したのではないか。 キより幕末の条約 |
| | ・さらに新しいきまりを作ったのではないか。 明治政府の政策 |
| 調べること | <ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法の制定 ・日清戦争 ・日露戦争 不平等条約の改正 ・世界に認められた日本人 |
| ゴールの姿 | 日本は憲法の発布や二つの戦争の勝利、科学の発展、条約の改正を通して国の力が充実し、その力を海外に示すことで、欧米の国々に認められ、国際的な地位が向上していった。 |

2 小単元の目標

黒船の来航、明治維新、文明開化などについて、年表、地図、想像図などの資料を活用して調べ、明治政府は廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かるようにする。

《ゴールの姿》
明治政府は、大久保利通たちが中心となり、外国からたくさんの技術や文化を取り入れ、人々の生活にも大きな影響を与えながら、新しい国づくりを進めていった。

3 実践

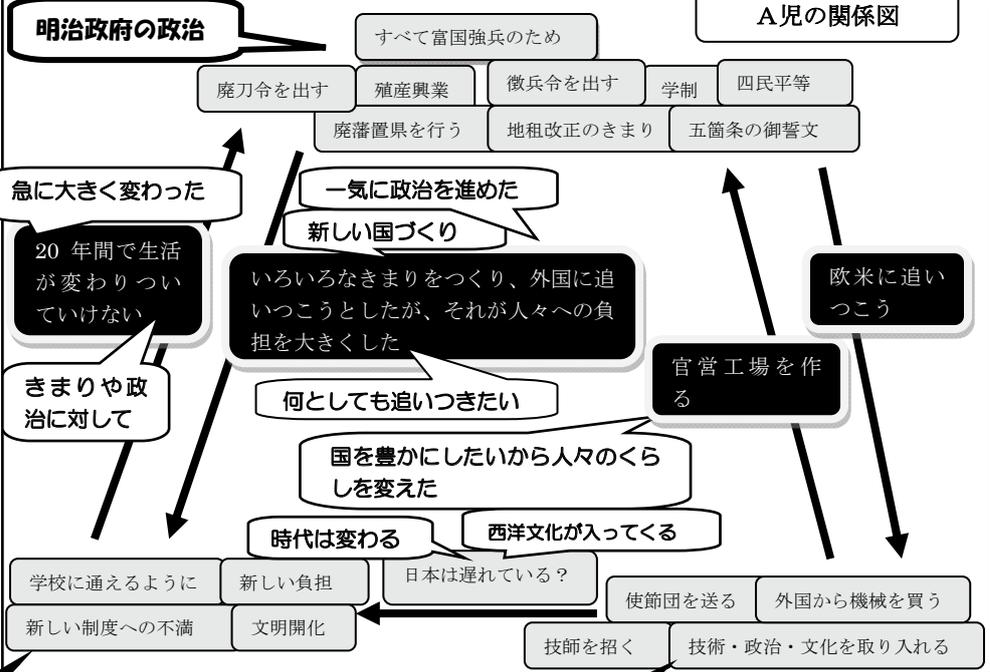
| | ねらい | ○学習活動 | □資料 | ※指導・支援 ★多面的にとらえさせるための指導 ◇評価【観点】(方法) |
|---|--|--|---|--|
| つかむ | ①明治のはじめに人々の生活が大きく変化したことに気付く。 | ○2枚の絵を比較しながら観察してノートに書き込み、発表する。 ○2枚の絵は20年間の変化を表したものであることと、幕末と明治時代初期の様子であることを知る。 | □幕末の日本橋の様子を表した絵 □明治初期日本橋の様子を表した錦絵 □20年間の年表 | ◇黒船の来航、明治維新、文明開化などについて関心を持ち、資料を活用して進んで調べようとしている。 【関・意・態①】(発言・ノート) |
| | ②黒船の来航について調べ、ペリー来航をきっかけに我が国が開国したことが分かる。 | ○ペリーが日本に来た理由と幕府の対応について資料を見ながら考える。 ○世の中や人々の生活がどのように変わったか予想し発表する。 ○年表から新しい国づくりにかかわった主な人物を確認する。 | □江戸時代末期に外国船が来航した場所と年が書いてある地図 | ◇ペリーの来航をきっかけに、我が国が開国したことが分かる。 【知・理①】(発言・ノート) |
| | ③開国後の世の中の変化や活躍した人物について調べ、学習問題を考える。 | ○開国した後の世の中はどのように変わっていったのか、年表から人物や出来事を読み取り、発表する。 ○福沢諭吉の業績について教科書・資料集等を活用して調べ、ノートにまとめる。 ○疑問や感想を出し合い、全体で学習問題を考える。 | □年表 □福沢諭吉の肖像画 □『学問のすずめ』の一部 | ※ペリー来航から短期間で世の中が急激に変化していることに気付かせる。 ※江戸時代までの身分制度を振り返らせ、福沢諭吉の考え方が当時の人々にとっていかに新しいものだったか想像させる。 ◇黒船の来航、明治維新、文明開化などについて、学習問題や予想、学習計画を考え、記述している。 【思・判・表①】(ノート) |
| 【学習問題】 明治政府は、どのようにして新しい国づくりを進めていったのだろう。 | | | | |
| | | ≪児童の予想≫ ・きっと外国から教えてもらったのではないか。 ・何かきまりを作ったのではないか。 ・学力を上げたのではないか。 ・文化や技術が発展したのでは？ ・外国に似せようとした。 | ★発問 今までまとめてきたノートや関係図をもとに予想しよう。 | |
| 調べる | ④⑤大久保利通ら新しい政府の行った諸改革によって近代的な政治や社会のしくみが整ったことを調べる。 | ○「誰が」「どんなことをしたか」「考え方」等、計画に沿って調べ、分かったことをノートにまとめる。 ≪調べること≫ ・殖産興業→官営工場を作り、産業の発展を目指す。 →近代的な工業を学ぶ。 →外国から技師を招く。 →機械を買う。 ・徴兵令・地租改正 ・廃藩置県 ・五箇条の御誓文 ・四民平等 ・学制 | □年表 □肖像画 □各人物年表 □映像資料 ★発問 調べる人物の思いや願い、その業績の原因と結果、その経緯をはっきりさせてまとめよう。 | ★調べる内容は政府のやったことが中心になるがその際、多面的に見るための資料「明治維新による人々の生活の変化(文章資料)」の用意し、政治以外の面にも注目させる。 |
| | | ★調べたことを付箋に書き、明治政府の政治、人々の暮らし、外国との関わりの三つの視点に合わせて、付箋を分けてノートに貼らせる。 | ◇地図や年表、想像図などの資料を活用して、黒船の来航、明治維新、文明開化などについて必要な情報を集め、読み取っている。 【技①】(ノート) ◇調べたことをノートや関係図にまとめている。 【技②】(ノート) | |

| | | | | |
|------|---|--|-----------------------------|--|
| まとめる | ⑥ これまで学習してきたことを関係図にまとめ、この時代の歴史的事象の意味を考える。 | ○ これまでまとめてきたノートを振り返りながら、この時代について関係図にまとめる。 ○ 三つの視点の関係性について矢印を書き、その矢印が何を表しているかを考える。 | □ 今まで学習してきたこと（ノート） □ 関係図 | ※ 明治政府の政治・人々の暮らし・外国との関わりの三つの視点で関係図にまとめる。 ※ 書きためてきた付箋を画用紙に貼ってまとめさせる。 |
|------|---|--|-----------------------------|--|

学んだことを分類、整理して関係図を作る。

矢印の観点は
・ 思い・ねらい
・ 原因や結果
・ 経緯
として書かせた。

A 児童は、矢印に書いたことに友達の意見を聞いて吹き出しにして付け加えている。そうすることで、更に多面的に捉えることができた。



| | | | |
|--|--|--|---|
| <p>人々の暮らし</p> <p>○ 三つの視点の関係性についてグループで話し合う。 ○ 次時は全体で確認することを確認する。</p> | <p>外国との関わり</p> <p>◇ 調べたことを基に、歴史的事象の相関を考え、関係図中に適切に表現している。 【思・判・表②】(発言・関係図)</p> | | |
| <p>⑦ これまでに学習してきたことまとめた関係図から、小単元の学習問題の解決を図る。(本時)</p> | <p>○ 小単元の学習問題とこれまでに学習してきたことを振り返り、本時の学習課題を確認する。 ○ 自分の書いた関係図について発表し、学級で共通理解を図る。 ○ 自分の書いた関係図を基にして学習問題について自分の考えをもつ。 ○ 自分の考えを発表し、学習問題の解決を図る。 ○ 書いたことを発表し、全体での共通理解を図る。</p> | <p>□ 今まで学習してきたこと(掲示) □ 関係図</p> <p>★ 関係図にまとめたことを伝え合い、友達の見解を取り入れて再考できるようにする。</p> | <p>※ これまでの学習内容をノートや掲示、関係図を見直して想起させる。 ※ 多面的に捉えるために、明治政府が行ったことだけでなく、人々の暮らし、外国との関わりについても考えさせる。 ◇ 関係図の記述を基に、学習問題についての自分の考えを適切に表現している。</p> |

《A児の学習問題に対する自分の考え》

私は、明治政府は、外国の文化や技術を取り入れていろいろなきまりをつくり、それにそって新しい国づくりを進めていったと思う。なぜならば、外国に追いつくために官営工場をつくって産業の発展を目指したり、欧米の文化を取り入れて、人々の生活を西洋風にしていったりと、国の様子をいろいろと変えていったからだ。
でも、明治政府が行った政治により、短い間に人々の暮らしは大きく変わってしまい、人々の負担が大きくなっていったと思う。
明治政府の政治により、外国に近づきはしたが、人々の暮らしを大きく変えてしまったのだと思った。

政治の面だけでなく、人々の暮らしの面をふまえて、考えを書くことができています。これは社会的事象を多面的に捉えていると言える。歴史学習の初めは、学習問題に対する考えをどのようにまとめて書いたらよいか分からない児童が学級に半数以上いたが、本小単元では、関係図にまとめたことによって、ほとんどの児童が学習問題に対する自分の考えの中に政府側の立場だけでなく、人々の立場からも考えを書くことができるなど、多面的に捉えることができた。この活動を繰り返すことで、最終的には、より広い視野から考えられるようにしていく。

VI 研究の成果

○ 社会的事象を多面的に捉えさせるための学習活動の設定

児童が小単元で学んだことを様々な面に分類・整理し、それぞれの関係性を関係図にまとめさせたことで、歴史的事象を多面的に捉えるようになった。

| | 天皇中心の国づくり | 新しい日本、平和な日本へ |
|--------|--|---|
| A 児 | 聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、中大兄皇子や中臣鎌足、聖武天皇によって受け継がれた。大仏作りでは全国から260万人もの人が集まり、みんなの協力があったからこそ成功だと思うので、聖武天皇の詔はすごいと思った。 | 戦後、日本は日本国憲法の制定や戦後改革、国際連合への加盟、オリンピックの開催を行ったことで、世界の国々から認められ、生活が向上し、産業が発展したのだと思う。 <u>でも</u> 、高度経済成長による工業の発達により、公害などの環境問題が起こったことで困る住民もいた。 |
| B 児 | 聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、中大兄皇子や中臣鎌足、聖武天皇によって受け継がれていった。その中でも蘇我氏を倒した中大兄皇子や中臣鎌足の偉業の改新がすごかった。これで力のある豪族のやり方を、天皇中心のしっかりとした決まりを基にした国づくりにできた。 | 戦後の日本は、女性が政治に参加できるようになり、国民の国の政治に対する関わり方が変わったり、国際連合に加盟したり、東京オリンピックをきっかけに産業が発達し、高度経済成長をして世界にも認められるようになった。 <u>しかし</u> 、日本が成長したことで公害などの新たな問題も生まれ、苦しむ人たちもいた。 |

上記のように、関係図を用いてまとめ始めたころと比べると、「新しい日本、平和な日本へ」の学習では、「でも」「しかし」などの言葉を用いて、別の立場からも自分の考えを書く児童が増えたことから、歴史的事象を多面的に捉えるようになったと考えている。

○ 社会的事象の意味をより広い視野から考えるための指導の工夫

「活用のデザイン図」を作成し、「ゴールの姿」を明確にした上で児童にそれまでに習得した知識や概念を活用させて追究させていくような指導を行ったことで、児童はより広い視野から社会的事象の意味を考えるようになった。そして、歴史学習の最後で習得した概念を活用し、それを根拠として歴史を学ぶ意味を考えることができた。

| | |
|--------|---|
| C 児 | <u>たくさんの人たちが日本をより良くしようと行動していたことが分かりました。なぜなら、聖徳太子が十七条の憲法をつくったり、小村寿太郎が条約改正のために努力したりするなど、その時代の課題を解決し、より良い国になるよう努力していたからです。この日本はいろいろな人たちで成り立っているのだと改めて思いました。私も日本人だから少しでも日本に役立つことをしようと思いました。</u> |
| D 児 | <u>これまでの政治がなければ今の日本はなかったと考えます。なぜなら、歴史上の人物は課題を解決して日本をより良い世の中にしようと努力してきたからです。日本はたくさんの人によって支えられてきたと思います。でも、まだより良くできることがあるのではないかと思うので、いろいろなことをより良くしていきたい。僕もその一員になるために努力していきたいと考えます。</u> |

上記のように習得した概念を活用し、先人の様々な業績が国家・社会の発展につながっていたことや過去のできごとを現在及び将来の発展に生かすことを考えた児童が対象児童（6学級170名）全体の8割を超えた。このことから、社会的事象の意味をより広い視野から考えられるようになったと言える。

VII 研究の課題

- 先人の業績から歴史的事象の意味を考えさせることには有効であったと考えているが、文化遺産等から歴史的事象の意味を考えさせる学習の検証は十分ではなかった。

平成27年度 教育研究員名簿

小学校・社会

第3学年及び第4学年分科会

| 地区 | 学校名 | 職名 | 氏名 |
|-------|-------------|------|--------|
| 江東区 | 江東区立明治小学校 | 主任教諭 | 柳沼 麻美 |
| 中野区 | 中野区立江古田小学校 | 主任教諭 | 笠原 駿 |
| 杉並区 | 杉並区立杉並和泉学園 | 主任教諭 | ○ 三浦 哲 |
| 豊島区 | 豊島区立千早小学校 | 主任教諭 | 塚島 慶子 |
| 東久留米市 | 東久留米市立小山小学校 | 主任教諭 | 宮澤 竜太郎 |

第5学年分科会

| 地区 | 学校名 | 職名 | 氏名 |
|-------|--------------|------|---------|
| 新宿区 | 新宿区立愛日小学校 | 主任教諭 | 田中 かおり |
| 世田谷区 | 世田谷区立松丘小学校 | 主任教諭 | 井上 佳子 |
| 小平市 | 小平市立小平第九小学校 | 主任教諭 | 嶽間澤 陽介 |
| あきる野市 | あきる野市立東秋留小学校 | 主任教諭 | ○ 水間 信護 |

第6学年分科会

| 地区 | 学校名 | 職名 | 氏名 |
|-----|-------------|------|---------|
| 狛江市 | 狛江市立和泉小学校 | 主幹教諭 | ○ 馬場 善之 |
| 港区 | 港区立南山小学校 | 主任教諭 | ◎ 山崎 禎久 |
| 新宿区 | 新宿区立柏木小学校 | 主任教諭 | 安部 剛史 |
| 江東区 | 江東区立越中島小学校 | 主任教諭 | 沢畑 慶介 |
| 練馬区 | 練馬区立大泉第一小学校 | 主任教諭 | 飯塚 航 |
| 多摩市 | 多摩市立永山小学校 | 主任教諭 | 勝田 一郎 |

◎全体世話人 ○分科会世話人

[担当] 東京都教育庁指導部義務教育指導課

指導主事 秋田 博昭

平成27年度
教育研究員研究報告書

小学校・社会

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成27年度第197号〕

平成28年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 正和商事株式会社